

## 第2回 平成18年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

日時 2005年(平成17年)7月1日

場所 藤沢市役所新館7階第7会議室

### 1 開会

### 2 確認事項

(1) 資料について

(2) 会議録署名委員について

### 3 議事

(1) 議題 平成18年度使用藤沢市立中学校用教科用図書について

### 4 閉会

## 出席委員

- |       |        |        |
|-------|--------|--------|
| ・植田儀武 | ・山田あや子 | ・富田務   |
| ・丸山紳一 | ・鈴木正弘  | ・田中朗   |
| ・田坂宜文 | ・秋田晃   | ・亀谷みゆき |
| ・番場恂子 | ・神戸正雄  | ・小西夏織  |
| ・内野喜視 | ・角田宗夫  | ・古谷元   |
| ・根本恒夫 |        |        |

## 出席事務局職員

- |            |       |               |        |
|------------|-------|---------------|--------|
| ・教育長       | 小野 晴弘 | ・学校教育課指導主事    | 吉田 早苗  |
| ・教育総務部長    | 林 良雄  | ・学校教育課指導主事    | 高石 佳久子 |
| ・教育総務部担当部長 | 落合 英雄 | ・学校教育課指導主事    | 柚原 章   |
| ・教育総務部参事   | 浅木 良一 | ・学校教育課指導主事    | 上條 茂   |
| ・教育総務部参事   | 飯島 広美 | ・学校教育課指導主事    | 齋藤 公孝  |
| ・教育総務課主幹   | 小島 隆  | ・学校教育課指導主事    | 岡 滝男   |
| ・学校教育課主幹   | 桑山 光生 | ・教育文化センター指導主事 | 川地 啓文  |
| ・学校教育課指導主事 | 新屋敷正隆 | ・教育文化センター研究主事 | 菊池 洋子  |
| ・学校教育課指導主事 | 飯田 瑞穂 | ・教育文化センター研究主事 | 佐々木 貴  |
| ・学校教育課指導主事 | 三森 孝久 | ・教育総務課主査上級    | 井出 秀治  |
| ・学校教育課指導主事 | 中澤 正子 | ・教育総務課主査      | 松森 裕二  |

## 会議録

### 第2回平成18年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会

平成17年7月1日(金)

#### 植田委員長

皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領に従い、傍聴下さることをお願いいたします。

どうぞよろしく申し上げます。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条2項の規定にあります、「委員の半数以上の出席」要件を満たしておりますので、ただいまより第2回平成18年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

それでは、議事に先立ち、事務局より本日の資料について説明させます。事務局、お願いします。

#### 事務局

それでは、まずはじめに、第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日お持ちいただきました資料について説明いたします。

はじめに、文部科学省が作成しました「中学校用教科書目録」です。この目録から教科書を採択することになっており、本審議委員会が審議対象とする教科書のリストにあたります。

次に、県より報告されました「中学校用教科用図書調査研究の結果」です。これは、県の選定審議会のもとにおかれた調査委員会が、調査・研究した結果でありまして、選定審議会を経まして県教育委員会から本市教育委員会へと送付されましたものでございます。

次に、本審議委員会の下におかれまして調査員によって作成されました「平成18年度使用教科用図書調査資料」です。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し十分な経験と知識を有するもののうちから教育長が、調査員として各種目毎2名から6名任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。なお、今回調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、この調査資料の最終ページに記載してございます。

続きまして、「平成18年度使用教科用図書調査書」です。これは、各中学校長が自校の教師に調査研究させたもので、各中学校長の責任の下、県の調査研究の観点に沿って、9項目から種目によっては10項目の観点毎に調査研究したものを簿冊としたものでございます。

次にこれも、本日までの間に参考資料として見ていただいております「平成18年度使用教科用図書意見・感想」です。これは、市民及び保護者向けに各中学校及び教育文化センターにおいて教科書展示会を開催した際に

いただいた意見・感想でございます。  
以上で資料の説明を終わります。

植田委員長

ありがとうございました。ただ今、5つの資料について説明がありました。これで本日の審議に必要とされる資料も出揃いました。いずれの資料も本日の審議の参考になるものと考えます。まず、資料につきまして、ご質問はございますか。

それでは無いようですので、議事に入ります。

本日の議事は、第1回審議委員会でお諮りし、決定しておりますとおり、お手元の議事日程により進めてまいります。

審議の途中に1回休憩を取りたいと思います。

まずはじめに、「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づきまして、会議録署名委員を指名いたします。今回は、丸山委員と古谷委員をお願いいたします。丸山委員、古谷委員よろしいでしょうか。

丸山委員

結構です。

古谷委員

結構です。

植田委員長

ありがとうございました。ではよろしく願いいたします。

では、ここで議題、「平成18年度使用藤沢市立中学校用教科用図書について」審議してまいります。ここで審議の進め方について皆様方にお図りしたいと思います。

審議項目は、16種類ございます。これを一括というわけにはまいりませんので、国語、書写といった順番ですすめてまいりたいと考えます。また、審議の方法は、審議委員が自らの研究・判断により、長所や特色があると考える発行者名とその内容について、ご発言いただきたいと思います。

なお、諮問に対する答申につきましては、各委員のご発言を簡潔にまとめ、それを記載することによって果たしてまいりたいというふうに考えます。

以上のような段取りで、進めてまいりたいと考えますが、皆様方よろしく願いいたします。

各委員

結構です

## 植田委員長

ありがとうございます。それでは、そのような方法で進行し、答申書を作成いたします。それでは、国語から審議してまいりたいと思います。委員の発言を求めます。国語についていかがでございましょうか。

## 番場委員

国語について発言させていただきます。現行の中学校学習指導要領では、国語は、「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の3領域と言語事項1事項に分かれています。構えることなく国語の力をバランスよく育てるために構成されたもので、各領域には具体的な言語活動例が示されており、生徒の主体的な活動をふまえるということで、それらをふまえて教科書の審議にあたって3領域1事項のバランスを重視していきたいと考えます。

その観点で見ていくということなのですが、まず最初に、光村図書ですが、生徒の発達段階に応じてきめ細かく単元を構成しています。各教材に「目標」「学習の見通し」が示されていて、生徒が自ら取り組みやすいよう工夫されているよう感じました。「読む」教材では質の高い、手応えのある作品が選ばれております。国語教師として中学生のこの時期に是非読んで欲しいなと思える作品がたくさん掲載されています。とても手応えのある中身・内容になっているのではないかと考えます。「話す・聞く・書く」領域においてわかりやすい説明で、いろいろなテーマの中から生徒の実情に合わせて教材を選ぶということもことごとくできるような工夫がされています。そして、古典課程の図版ですが、これもとても見事な形にまとめられているなという感じがしました。

次に三省堂の方ですが、本編と資料編と2部構成になっております。本編では基礎・基本を重視して、教材をぐっと精選しております。量も抑え気味にして、最低限ここだけをきちんとおさえて学習すれば基礎的な力をつくつという考え方で編集されております。その上に立って資料編をうまく活用していくということで、色々な学習にさらに発展させていくということもできます。「話す・聞く」「書く」領域では、生徒の興味を引く内容が言語活動としてよく工夫されていまして、その中で生徒に、平和・環境・あるいは、異文化交流など、今日的な課題をしっかりと投げかけているというようなことでも評価できるように思います。それから、資料編を連動させながらですが、調べたり発表する活動、これも3学年で丁寧に扱っておりまして、総合学習や実際の生活の中で様々な場面で生かせるのではないかなあというふうに考えます。

もう一つですが、教育出版です。この会社は、編集が「基本」、「補充と発展」、「言語知識」の三部構成になっております。今までの殻を打ち破って、全く本当に新しいユニークな発想で作らせたと感じました。賛否が分

かれるところもあるかもしれけれども、自分でカリキュラムを自由に組み立てられる、そういう意味で、国語教師として非常に面白いというふうに感じます。また、導入部で、古典の扱いが、これも目新しいのではないかというふうに考えました。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。他に意見はございますか。はい、山田委員。

山田委員

教育出版についてなのですが、教科書見本を見たときに、ずいぶん思い切ったことをするというふうに思いました。資料集と問題集が全部この1冊の中に入れておりまして、昔の参考書に近いというような印象を受けました。

また、東京書籍にもいいなあというところを感じました。「話す・聞く」「書く」というバランスがすごく良く取れていて、丁寧に作っているという印象です。また、目次が本当に工夫されていて、観点別の目標が明示されている。それに、読書案内が気に入って、3学年で99冊の本をカラー写真で紹介しまして、「100冊目はあなたが加えてください」というようなメッセージをつけているというところが、なかなかセンスが良くて、素敵だなあというふうに思いました。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。丸山委員。

丸山委員

転任して3か月たったのですが、うちの学校の教員は、「話す・聞く」「読む」の言語活動をととても丁寧にやっているなあというふうに感じております。前任校でもそうだったのですが、細かく評価も観点別にやっております。

そのような点で、使いやすいと思われるのが、また、バランス良く配置されているなあと思われるのが、三省堂と光村図書出版がいいかなというふうに感じました。

植田委員長

もう一方お手が挙がりました。角田委員、お願いします。

角田委員

先ほど、番場委員さんの方からもありましたが、写真、折り込みページの所なんですけれど、それからイラスト等ですね、とても丁寧に作られているなということを感じました。「話す・聞く」「書く」の領域では、各社それぞれいろいろ工夫がなされているなと思いましたが、そんなに際だっ

た違い各者ないなと私は感じたのですが、特に「読む」領域の作品ですね。質の良さというところで私は、光村図書出版が魅力的だなあというふうに感じました。以前に比べて読書に関するページに力を入れている発行者が増えていますが、やはり中学生には教室で本物に触れ、じっくり読んで考える時間を大切にして欲しいというふうに思っています。

「読む」領域については、学校図書もよい作品が載っていると思います。学校図書は、ちょっと判が小さいという感じがして、その分他社と比べると字が小さいような気がします。相手は中学生ですので、我々のように度が入っていないので（笑い）、そういう意味でオーソドックスな国語の教科書という、我々が慣れ親しんできたという感じで、子どもたちの手にもなじむのではないかなと思っています。

また、現在使用されている三省堂につきましても、教科書では基礎・基本をしっかりと学ぶというスタンスがはっきりしていて、わかりやすいと思いました。限られた時間の中でこれだけを実践にというのは、合理的な考え方だと思っています。

植田委員長

どうもありがとうございました。他にいかがでございましょうか。秋田委員。

秋田委員

今までのお話と重複するかもしれませんが、光村と三省堂あたりに、私は注目したいなと思います。

三省堂の方ですけれども、今の方もおっしゃってましたけれども、学習指導要領に非常に準拠して、オーソドックスな仕上がりになっていると思いますけれども、基礎・基本に徹したという感じがします。ですから、やはり子どもたちの国語教育の充実には非常に役に立つのではないかと思います。

あともう一つは、光村なんです。全体的な質の高さというのでしょうか、勉強する生徒の姿勢によって、勉強も深められるという配慮がなされているというふうに思います。これは内容とは別ですけど、本の装丁等も、とても感じよく、良く仕上がっていて、注目できるなと思いました。

植田委員長

どうもありがとうございました。他はいかがでしょう。我が子が使うというふうに考えますといかがでございましょうか。小西委員、突然のご指名ですが、よろしくお願ひします。

小西委員

私も、光村が質が高いなと感じました。自分の子どもがこれを使って勉

強することによって、やはり、読む・書くという基本の力が付くように感じられました。とにかく目標と内容とが計画性に優れているなという感じがいたしましたので、学習の目安というか見通しがはっきり立てられるような感じがいたしました。それから読書内容がやはりたくさん織り込まれているので自分で読みたい本を選ぶための目安にもなると思いました。

植田委員長

どうもありがとうございました。保護者委員の方、他にございますでしょうか。

ここで一言、私は、委員長という立場でございますが、長年国語教育に携わってまいりました。そこで、一委員として考えを述べさせていただきますというふうに思います。

私は、まず生徒の実情といえますか、実態といえますか、そういったものによって学習計画を立てる、それを柔軟にやることができる、そういう意味でまず教育出版に注目をいたしました。従来の教科書の編成といえますと、一つの単元にくいつかの教材がありまして、単元構成の順に学習をすすめていけば、大まかにそれぞれの各領域の学習が達成されるというようなつくりになっておりました。しかし、国語の学習というのは、他の教科でも言えることかもしれませんが、学習の学びが、螺旋的といえますか、同じところへ戻りながらも質が高まる、あるいは深まっていくというような、そういった要素が強い教科であるかなというふうに考えております。そういった学習のあり方といえますか、その特性を教育出版はうまく教科書の中に取り入れているなというふうに考えております。国語科の教師の裁量で非常にダイナミックなカリキュラム編成ができる。そういう意味では、まずは注目をいたしました。

次に教材の質の良さ、これは、他の委員からも何人か述べられておりましたが、教材の質の良さ、とりわけ「読む」領域の中における、教材の質の良さという点では、光村図書に注目をいたしました。確かに、教材というのは、学ぶための材料ということでございますけれども、じゃあ、教材で学ぶんだから、教材の質はどれでもいいかということ、そうではないと、いうふうにこう思います。あくまでも、言語教育を可能ならしめる教材ではあります、どんなジャンルの教材であったとしても、その教材が内側に秘めている感動といえますか、感動は大事だと思います。そういう意味では、光村図書がそれを達成しているのではないが、より達成しているのではないかとこう思いました。こう考えますと、各者各者に良さはあるのではございますけれども総括的に言えば、教育出版につきましては、国語の教科書の殻をやぶった斬新な編集といえますか、国語科の学びを一つダイナミックにしていくという、そういう斬新さを持っているということが言えますし、光村図書にありましては、教材の質がいいということ。それと全体的にバランスが良くて安定感があると、まあそのように拝見をいた



しました。そんなところを私は感じました。以上でございます。  
他にはいかがでございましょうか。はい、田中委員。

#### 田中委員

今の委員長さんのですねえ、「読む」領域の魅力というお話を伺ってまして、私は、自分が中学生だった時のことををふと思い出したのですが、今振り返ってみますと教科書で読んだ小説あるいは物語、それから説明文、そういったことがいい教材といえますか文章に出会って様々な本を読んでみようという私の読書感につながってきたのかなと思います。

冒頭、番場委員さんが3領域1事項すべてのバランスが大切というお話がありましたが、「話す・聞く」あるいは「書く」の領域で各者がそれぞれ工夫しているという感じを持っていますけれども、心の栄養といえますか、読書はそういう面があるかと思えますけれども、そういうことにつながっていく「読む」領域が魅力的というのが一つ大きなポイントになるのかなあというふうに思っています。そういう意味では先程から話が出ていますけれども光村図書が優れている、いいのではないかというふうに思っているところです。

#### 植田委員長

はい、どうもありがとうございました。他に国語につきましていかがでございましょうか。よろしゅうございますか。それでは、国語についての審議を以上で終わらせていただきます。このように今出ましたような意見を簡潔に取りまとめまして答申書を作成していくということで私たちの役割を果たしていきたいというふうに考えます。どうもありがとうございました。

それでは、書写に次は移りたいと思います。書写につきまして委員の発言を求めたいというふうに思います。いかがでございましょうか。番場委員よろしくをお願いします。

#### 番場委員

国語の中でも書写の時間がどのくらいになるか簡単にご説明いたしますが、国語の配当時間は、今1年生が週4時間、2年、3年生は週3時間ということで、その中で書写は1年生が国語の配当時間の中の10分の2程度、2、3年の方は、10分の1程度ということになっております。そうしますと最大限時間を確保したとしても1年生で2週間に1時間程度、2、3年は1ヶ月に1時間程度、というような割合になるかと思えます。その限られた授業時間の中で書写を考えますと、なかなか丁寧に時間をかけてというわけにはいかないものですから、まず生徒が興味を持ってくれること、そして、自主的に学習が取り組める工夫がされているかという点が大きなポイントになると思います。取り扱う内容では、学習指導要領に載っ

ておりますけれども2・3年生の方では「字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮し、目的や必要に応じて調和よく書くこと」それから「漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解して書くとともに、読みやすく速く書くこと」それが記載されています。これらが、バランスよく扱われているものが望ましいと考えました。

ということで、まず三省堂ですが、調査資料の方の真ん中あたり3つ目のところにありますけれど、「毛筆で硬筆の基礎を養う」、中学校の書写は、あくまでも書写でして書道ではないんですね。「毛筆で硬筆の基礎を養う」ということで、その考え方をもとに硬筆の書き込み欄を多く作っておりまして、生徒が自主的に学習できるような工夫がされています。もちろん毛筆も学習していくわけですが、最初にまず硬筆から入り、それを毛筆で形、筆順といったところの確認をして、最後にもう一回、硬筆に戻るという学習方法が非常に明解な形として表れております。説明の中には「筆順を味方につけよう」筆順を正しく書くときれいな形の字ができあがるというようなそういった導きのためのコーナーがあり、子どもにとっても「ああ、なるほどな、だから筆順があるんだな」というようなことをわかりやすい言葉で導いていますし、筆遣いも丁寧な説明がありまして、筆は今の生活の中でなかなか使われていない現状があるかと思いますが、そういった使い慣れていない生徒にもわかりやすい説明になっているかなと感じました。

次に光村図書出版の方ですが、すっきりとした紙面構成になっておりまして、三省堂に比べて毛筆の方に少し力を入れておりまして、毛筆の行書が多く扱われております。また、行書と楷書と対比させて、その違いをはっきり意識できるようになっており、そういった面ではわかりやすいかなあというふうに感じました。

また、教育出版の方ですが、毛筆の手本に筆順を細かく入れたり、硬筆での書き込み欄をつくったり、生活に活かせる題材、学校生活の中で活かせるような題材をたくさん取り上げるというような工夫がしてありました。そして、まず、表紙の見開きのところに「世界のありがとう」などというところがありまして、日本の文字だけではなくて、世界に目を向けた内容が取り上げられている、それも面白いなと思いました。以上です。

植田委員長

どうもありがとうございました。幅広い取り上げ方をしていただきました。この辺のところを受けまして保護者委員として古谷委員いかがでしょうか。

古谷委員

元来字が下手なもので今回よく見させていただいたんですけども、学校図書の用具の正しい使い方や書き方などが細かく書かれていて、自分ではすごくいいと思いました。姿勢の写真は、角度が悪いせいかも一つだと

思いますけれど、内容については、いろいろな書写があって楽しそうに学習できる予感がします。日常使っている手紙、はがき、日誌とふだん書き慣れているにもかかわらず、位置や書き方によって良くなるのが工夫されていて見やすい、使いやすそうに見えます。

それと教育出版。書写に大切なことは、筆の持ち方や姿勢もあるかとは思いますが、記載されている写真に斜め前からと真横からの写真が載っているのは、保護者としては、その姿勢のあり方ということには勉強になると思います。筆の持ち方、使い方、墨のすり方、などから見やすく覚えやすいと思います。あとは、東京書籍さんの楷書の書き方、説明の読みやすい点、筆の使いやすさは、見やすく覚えやすいと思います。その中で「確かめよう・広げよう」は、ちょっと私には見にくく理解が難しいと思いますが調べようという点では予習にもなっているのではないかと思います。最後の方の書き文字探しに関しては、教科書に記載されて無いものもあるのではないかと、ちょっと不安にもなりましたがこの3者に関しては多分に印象が高かったと思います。以上です。

植田委員長

どうもありがとうございました。ここで亀谷委員さんいかがでしょうか。

亀谷委員

私も、古谷委員と同じような感想を持ったんですけれども学校図書の手紙とかはがきとか日誌とか、やはり普段学校でレポートというか、書くことがあるので、その書き方を学べるのはすごく良かったと思います。書写に関しては以上です。

植田委員長

ありがとうございました。突然指名しましてすみません。他にいかがでしょうか。はい、山田委員。

山田委員

私は光村図書が中学校書写の特徴である行書を上手に扱っていると思いました。楷書、行書に調和する字体で仮名がいろは歌で扱われており、漢字から平仮名へと変化していく様子も載せられています。そのページの下の方に、平仮名と片仮名の五十音の表も扱われていて、仮名の扱いが大変丁寧だなと感じました。同じように仮名を丁寧に扱っている発行者で、東京書籍が挙げられると思うんですけれど、1年生用の教科書には、間違えやすい仮名の書き順が、朱書きで入っています。このページの上の方には、毛筆で表現された五十音表があり、仮名がどのようにして誕生したのか、

その文字の変遷が扱われています。それから、三省堂にも文字の源が入っており、五十音表で表現されています。また、2・3年のものには、いろは歌も挙げられています。指導内容にある漢字と調和した仮名を書くという点を考えると仮名は大事に扱って欲しいなと思っています。

植田委員長

はい、ありがとうございました。じゃあ、もうお一方、内野委員お願いいたします。

内野委員

私は、見ていった中で三省堂の実際に時計を計って文字を書かせるというページに感心しました。2, 3年生の指導事項の中には「読みやすく速く書くこと」とあるのですが、この力をつけるためにどのような指導をすればよいのかといろいろ考えたところ、文字を書く速さを変えて実際に書いたものを比べるという方法は大変有効であると思いました。他の者にはない目の付け所で、生徒も行書を学ぶ意味を納得するのではないかと思います。そのほかに評価できるのは光村図書出版の全体のバランスの良さ、こんなところを感じました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがで、あ、鈴木委員、よろしくおねがいします。

鈴木委員

私は光村図書出版が三省堂がいいと思います。見慣れた書写の教科書のイメージを踏襲しているのは光村図書出版だと思いますし、その中に豆知識など新しい情報も取り込んでいる点を評価します。しかし、限られた時間数の中で、実際の使いやすさという観点から見ると、硬筆で書き込みができる手軽さや生徒が自発的に学習しやすいという点を考え、三省堂が評価できるのではないかと思います。以上です。

植田委員長

はい、どうもありがとうございました。書写につきまして他にいかがでございましょうか。じゃあ、ここで先程の国語と同様に書写につきまして、一員として発言をさせていただきたいというふうに考えます。

先程番場委員の発言にもございましたけれども、書写にあてられる時間ありましたが、中学校では、決められた国語の授業時間の中で、書写にあてる時間というのは極めて限定されています。まあ、そういう限定された時間の中でいかに書写力をつけるかという点について、工夫がなされているな、そのように感じましたのは、三省堂の教科書でございます。硬筆の書き込み欄の多さっていいですか、まあ、そういったものをそれが果たし

ているのではないかというふうに思いました。

次に全く別の視点からなにございますけれども、大阪書籍にも注目をいたしました。この会社には日本の伝統文化の中で培われてきた文字文化をバックボーンにして書の美や生活の中の書に目を向けさせるという大きなねらいがあると思います。これは「国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる」という国語の大目標に通じるものかなというふうに思っています。そしてまた感心いたしましたのが、手本の書体の格調の高さであるとか、美しさ、あるいは資料として用いられている古典の名筆ですね。こういった、子どもたちの感性を磨くいいものになっているのではないかなというふうに思います。

もう1者、教育出版でございます。各教材が見開きページにコンパクトにまとめてあります。毛筆の時には使いやすいなとそのような感想を持ちました。また、これも行書の崩し方っていいですか、その崩し方を学ぶのに便利なものであろうなという感想を持ちました。以上でございます。

書写につきまして他にございますか。それでは、書写についての審議を終了したいと思えます。

それでは、引き続きまして社会科の地理的分野の審議をいたします。委員の発言を求めます。はい、根本委員よろしくお願ひします。

#### 根本委員

私は、2者に注目しました。1つ目は、帝国書院であります。地図の資料や写真などが効果的に取り入れられ、非常に豊富であるということと地理的事象を多角的に取り入れている、そういう構成になっていると思ひました。また、キャラクターの案内や地形図、地域図、概観図などの地図が鮮明で見やすいというところに注目しました。

二つ目は、東京書籍です。生徒が地域調べを行うときの調べるポイントがわかりやすく示されていて、地域的特色をとらえる視点また、方法を身につける上でもかなり効果的であるとともに、資料をどう読めばよいのか、考えることができる教材になっていると私は感じます。

#### 植田委員長

どうもありがとうございました。他にいかがでございましょうか。丸山委員お願ひします。

#### 丸山委員

根本委員の2者ともう一つ日本書籍新社に私は注目いたしました。まず、東京書籍ですけれども、取り上げられている国の数が多く、大陸ごとの地図や写真等が豊富です。学習指導要領にある「地理的事象に対する関心を高め」るために適していると思ひます。本文の構成も、課題提示や調べたことや資料から読みとれることなどから書き出していて、課題の把握がし

やすいと思います。

次に、日本書籍新社ですが、「コラム」とか「チャレンジしよう」などのコーナーや図版などが、生徒の興味・関心をひきやすく良かったと思います。また、都道府県調べでは、神奈川県が扱われていて、身近に感じると思いました。また、各単元の終わりに学習のまとめとして「学習を整理しよう」というコーナーがあり、良いと思いました。

最後に、帝国書院は、ワークシートや「やってみよう」のコーナーが要所所にあり、作業が明確に示されていて、基礎・基本の定着に有効だと思いました。また、3部の「世界と比べた日本」では、章毎に、自分の地域と比べる設問があり、自分の地域との違いを意識できるところが良いと思いました。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。他に地理的分野でいかがでしょうか。田坂委員お願いします。

田坂委員

各社とも資料の使い方っていうのがさうとう工夫してあって、それなりの特徴が出ているのかなと思いました。私は3者について注目してみました。

最初に教育出版ですけれども、これから学習していく内容、課題をですね、キャラクターを使って吹き出し、そういったような形で案内するなど工夫が見られます。また、巻末にはペーパークラフトを使って、自主的に自分で活用しながら学習をすすめていく、そういう形で興味・関心が示されていく、そういったものがありました。それからトレーシングペーパー、こういったものを取り入れて、地形の学習に役立つ工夫、そういったものがなされていました。それからここでも神奈川県の教材、写真ですけれどもコンビニあるいは横浜港の写真、こういったものも掲載されています。

帝国書院についてなんですけれども、本文中に「調べ先」というのが明示されていて、生徒が「調べ学習」を進める際にとっても有効な指針になっていく、そういう部分がありました。それから帝国の教材につきましても神奈川教材がかなり入っています。朝のプラットホーム、電気機械工場、港北ニュータウン、横浜市の通勤通学者数、それからもう少しありますね。研究開発施設なんかの写真もここには載っています。そういった意味ではとても親しみやすい、そういった内容になっています。

日本書籍新社は、発展的学習として、「さらに深める学習」というコーナーが、13テーマ設定されてます。また、キャラクターを使って、自分自身の課題を持ちやすく工夫してあり、興味・関心を高める内容になっております。それから、ここの中でも神奈川県を非常に大きく取り扱っている部分があります。都道府県学習で、神奈川県を取り上げ、湘南海岸や江

ノ島そういったものが取り上げられ、地元にとって親しみが持てる、そういう教材の内容になっていたというふうに思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。田中委員、よろしくをお願いします。

田中委員

丸い地球を平面で表すというのは、形ですとか方位ですとか、それから面積等いろいろ違いが出てきて、それだけどれを正しく取るのかということで、地図も様々な方法があるのですけれども、世界地図の図法がですね比較的丁寧に説明されているのが、大阪書籍かなというふうに思います。なかなか子どもに理解しづらいところですが、丁寧に説明されているところです。それから、巻末も含め統計資料が多く、資料を適切に選択、活用して地理的事象を考察していくために大阪書籍はいいだろうと感じます。それから、コラムの内容も「大きくジャンプ」というコラムがありまして、発展的な学習をする上で興味をひくものとなっていると思います。それから学習の案内役のキャラクターとして、私たちの世代はもちろんですが、中学生の世代にも人気があるだろうと思われる鉄腕アトムを使用しています。親しみが持てるのかなと感じます。

帝国書院なんですけども、各者とも特徴のあるコーナーを設けているんですけれども、帝国書院につきましては、「地理の見方ポイント」で、学習を進める上での視点がはっきりと示されています。「ステップアップ」というコーナーもありまして、学習のまとめ、復習ができるよう構成されています。また、「プラス」というコーナーは、発展的な学習のための教材として有効だと思います。

さらに、東京書籍です。巻末に用語解説があり、基礎的な事項をおさえやすいように工夫されていると思いました。また、「エピソード」や「地理にアクセス」のコーナーでは、子どもたちの地理的事象に関する興味・関心を高める工夫がされていると思いました。以上です。

植田委員長

どうもありがとうございました。他にいかがでございましょうか。

よろしゅうございますか。地理的分野については以上で審議を終えたいと思います。

それでは次に歴史的分野について審議をいたしたいというふうに考えます。この歴史的分野と次の公民的分野につきましては、先程資料のご説明にもございましたけれども、市民の皆様は平成18年度使用教科用図書意見・感想、その簿冊を見ましても多くの意見が寄せられています。従ってそれだけ関心が高いのかなというふうに私はとらえております。従いまし

てこの歴史的分野及び公民的分野につきましては、多角的、多面的な角度からご審議をお願いしたいというふうに考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まずは、歴史的分野について審議をすすめてまいります。委員の発言をよろしくをお願いいたします。いかがでございましょうか。はい、秋田委員よろしくをお願いいたします。

#### 秋田委員

内容的なこととさることですが歴史というのはやはり、私たちが中学や高校で勉強したことがどうしても量的に多いし継続した知識とならない細切れ状態になってしまっている。例えば、普段、歴史的なドラマを見てもその辺の関連がずっと出てこないというようなことがあります。ですからやはり、今まで中学生を見ていますと一部の子を除いて敬遠されている部分も無いでも無いと思います。そういう面で今度出されている教科書を見ますと、まずですね表紙の表現ですか、非常に彩りが多様であるというんですか、なんかこう見てみたいなというふうな子どもたちの関心をまず呼び覚ますような感じのものがたくさんあって、なんか私たちが使ったころの教科書、歴史というイメージとまた違って新鮮な感じがしました。それから表紙を開いた中の扉の部分ですねえ、図版とかいろいろ載っているところですけども、特に近年日本の伝統的文化とかその辺が注目されています。世界遺産とかそういう話もありますけれども。

そういう中で、東京書籍ですけども「世界の中の日本」と言うことで日本と世界との同じ時代の関連というんですか、私は美術の方をやっていたんで、例えば印象派のゴッホと江戸時代の浮世絵の安藤広重をタイアップして出してくるとか事実影響を受けている訳なんですね。まあそういう面で必ずしも無縁ではなかったということ。それから、やはり扉の中で扱っているもので日本の伝統的な文化という中で清水書院は、日本の歴史的遺産なんかをたくさん取り上げています。

それから、扶桑社なんですけれども日本の美術の中でも代表的なものをそこで取り上げていると、どちらかというところと現在の生活の中で日本の伝統的なそういうものっていうのは関連が薄いのですけれども、やはりそういう面では生徒の関心を呼ぶっていうんですか、その辺を相当意識して作られていると思いました。

#### 植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでございましょうか。はい、鈴木委員よろしくをお願いいたします。

#### 鈴木委員

私は、各発行者の中で、特徴だっていて評価できるものが、日本文教出



版かなと思いました。それは、古代の日本とか、江戸時代の大名配置とかの部分で、地図を中心としまして興味を持たせるような工夫がすごくなされていると思いますのでそんなふうに思いました。以上です。

植田委員長

引き続き富田委員。

富田委員

日本にこだわらず、世界に目を向けるという意味では、教育出版の「アジアの世界遺産」や日本書籍新社の「日本のおもな史跡・世界のおもな史跡」という取り上げ方も、日本との比較という点ではおもしろいのかなとそんなふうな感想を持ちました。以上でございます。

植田委員長

田中委員お願いいたします。

田中委員

先程から扉のページのお話が出ていますけれども、小学校6年生で歴史学習をするわけですけれども、その子どもたちが中学の歴史学習に入るきっかけとしまして、最初に開く扉のページというのが大切かなと思います。そういう意味からいいますと先程からお話が出ていますように各者それぞれ工夫されていますけれども、清水書院が日本の歴史的遺産ということで、修学旅行で日光へ行ってますので、まあそういったことで関係がありますのでとりかかりとしてはいいのかなと思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでございましょうか。はい、田坂委員お願いいたします。

田坂委員

私は、歴史へ興味を持たせるということで、教科書を見ていきますと写真や図版がとても各者工夫していると思います。学習指導要領に基づいて、我が国の歴史の大きな流れをつかむという視点で見ると、帝国書院の「人物の変化を見てみよう」というコーナーから「歴史を学ぶにあたって」というところに展開し、そして「身近な地域の歴史を調べる」というふうに展開が発展していくわけなんです。そういったことからこれらのことについて、帝国書院のこの部分については評価できるなあと感じております。

それから大阪書籍なんですけれども、「歴史を学び、歴史に学ぼう」という題目で歴史学習の基礎知識を大切に導入していこうという工夫が見られます。以上です。

植田委員長

はい、丸山委員よろしく申し上げます。

丸山委員

学習指導要領の目標の（４）に書いてあります、「身近な地域の歴史に目を向け具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高める」というふうに書いてあるんですけど、帝国書院は豊富な特設のページがありますし、興味を持たせる工夫がなされています。そんな点で今、地理と歴史を並行で扱っているんですが、この地歴並行学習という考え方に立っても帝国は上手くできているなと思います。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。番場委員よろしく申し上げます。

番場委員

今の、国語あたりでも総合学習と連動して様々な調べ学習をしたり、調べて発表したり、会議をしたり、そういうような流れの授業、学習内容が組み込まれているんですが、そういう意味で私も帝国書院は、生徒が調べ学習をしていく時の学習方法がとてもいいに示されているんじゃないかなと思いました。外に出て、まず課題を発見して、地域に関する情報収集して、聞き取り調査をして、さらに資料を整理して、発表する。そして評価をしていくというふうに、子どもたちが、すぐに取り組みそうな感じがして興味を持ちました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。神戸委員お願いいたします。

神戸委員

私は歴史がとても苦手な子どもだったんですけども、苦手な子どもが教科書を見たときにやってみたいなあと思えるような教科書という視点で見させていただきました。その中でまず、東京書籍なんですけども、教科書の中にどんなふうに学べばよいかという学び方が学べる「スキルアップ」というコーナーを設定してあるという、本当に学び方もわからない子どもにとって、そういったものがあるというのは非常に助かるのかなあと。また、東京書籍の場合、調べ学習に関しても非常にいいに説明がされていると感じました。もう一つは、扶桑社ですけども、中ですね、歴史ドラマを子どもたちに演じさせて、そして、主体的学習に取り組ませると

いう今までにない工夫が見られている、おもしろいなあと感じました。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでございましょうか。角田委員。お願いいたします。

角田委員

先程地理の教科書でも言及されていましたが、最近の社会科、歴史の教科書もですねえ、キャラクター等を使ってどんどんビジュアルになってきているなあという感じを受けております。生徒たちにとっては親しみやすい教科書になってきているんじゃないかなと思います。

中でも東京書籍では、先程の地図にもあったかなあとと思いますが、キャラクターに台詞を言わせることで要点をつかみやすくしていますし、大阪書籍では、アトムがまた登場して、歴史の案内をしていると、まあそんな扱いになっているようです。

キャラクターでは有りませんが、日本文教出版では、各章にタイムトラベルという見開きのページがあって中学生、生徒たちにとって学習に良いアクセントとなっているというふうな感じをいただきました。

それからあと、また別の視点からなんですが、社会科という教科は歴史的分野だけではなくて、その他、地理・公民、そういった各分野との関連も私は大切だと思っているんですが、教育出版では、最終の章のところですねその点の配慮がよくなされていて、次の公民的な内容への橋渡しができているのではないかと思いました。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、田中委員お願いいたします。

田中委員

先程、写真や図版の話がありましたけれど、清水書院ですけれども写真や図版、それから地図が大変多く、子どもたちの理解を助けているのかなと思います。

大阪書籍は逆に必要最小限のものを、大きく見やすく取り上げているように思われます。

それから、東京書籍なんですけれども実際の大きさを実感できるようにということで実際のサイズが入っていて、資料として使えるようになっていると思います。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。はい、根本委員お願いいたします。

根本委員

生徒が学習を進めるという点を見ていくとですね、帝国書院の資料がいいかなとこういうふうに思います。本文中に図版・資料に番号が書いてあるんですね。ですからそういうものを活用しながら本文を読んで授業をすすめていけると、まあ工夫してあるなとこういうふうに感じました。

もう一つは教育出版です。番号は示してないんですけど、毎時の導入に使えるよう資料が提示されているように思います。また、教科書のページを閉じて年表が見えるように編集してある点も工夫されているところだと思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。内野委員お願いいたします。

内野委員

私、年表という部分を見て感じたのですが、年表というのは、限られたスペースに何を、どのように載せていくか、しかも数字も入るわけですから、いかに見やすく作るかが、大切なポイントではないかと思いました。その点で、清水書院の年表は、大変すっきりしていて見やすいと思いました。

また、日本文教出版も同じく見やすいですし、場所も中央にあって、使いやすさも大変工夫されているとこのように思います。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。この辺で我が子に使わせたいなということで保護者委員で、古谷委員いかがでしょうか。

古谷委員

多い中で一番印象に残ったのが、帝国書院の生きる力を子どもたちが「調べ・考え・答えを出していく」学習内容はいいと思います。暮らしの工夫や東アジアとの関わりの視点なんかは互いの影響があって面白いと思います。その中で技術の発展、文化交流、家族、環境、教育それぞれがどのように変化してきたかわかりやすいと思います。中央の歴史と身近な地域のつながりでは、北は北海道、南は沖縄をとおして身近な異文化がわかるのは良いと思います。その中でまた、特設ページの「歴史に挑戦」も変わった内容で思考力もつくのではないかと思います。全体的に絵、写真、古代の巻物、地図等見やすくなっているいい物と思います。

それと日本書籍新社さんの、ちょうど僕なんか中学生の頃見ていたよう

ななつかしさもあり、世界的視野に立って日本を較べるところはすごいと思います。各時代の特色と変化を理解できるような内容もいいと思いますが、民衆の生活史、文化史の結びつきが理解しやすく書かれていて写真、絵などもわかりやすく思います。欲を言えば最近の歴史を入れていただくと興味関心を高めるし、学習意欲が沸いてくるのではないのでしょうか。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。他に、山田委員お願いいたします。

山田委員

先程、図版や資料のお話がありましたが、私は、読み物としても充実しているものが多いなあと思いました。いくつか挙げてみたいと思いますが、大阪書籍の「歴史をほりさげる」や教育出版の「ひとびと探検隊」、扶桑社の教科書は、非常に読み応えがあると思いました。

興味を持ったものとしては、日本文教出版の「女性と子どもの歴史」というコーナーです。他の教科書には載せられていないように思うのですが。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。番場委員よろしくお願いします。

番場委員

内容と少し違うかもしれませんが、基礎基本をきちんとおさえていくそれを定着させていくということで編集の仕方に興味を持ったんですが、2ページで一組きちんとなっているということで、日本書籍新社の編集の仕方にちょっと興味を持ちました。はじめの問いがきちっと示されていて次のページに次の時間へつながるような問いかけが入っていましたのでそういう意味できちんと1単位時間が2ページにわたって見開きの状態でつながっているなと感じました。

教育出版の方も同じように見開き1単位時間を徹底して構成しているなというふうに、そういう意味では、子どもたちも今日はここからここまで、次の時間は何を勉強するんだっていうところがはっきり見えてわかりやすいかなと感じました。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他は、いかがでしょうか。

ここまで様々な教科書の内容の特色から見てという観点で審議がすすんできたように思います。ここから少し方向を変えまして、生徒の実態、地

域の特性、そういった視点から見てどうであろうかというような点で審議していきたいというふうに思います。そういう視点からいかがでございましょうか。はい、田坂委員、よろしく申し上げます。

田坂委員

どこの発行者、教科書というのではなくて、藤沢の生徒の実態、私がいままで接する中で感じている生徒の実態を少し話をしてみたいと思います。もちろん生徒一人ひとりの個人差はあります。それと、教師の働きかけというのも非常に大きなものがあると思いますけれども、おしなべてみていきますと藤沢の子どもたちは、ものを調べる学習だとか、あるいは、自分から主体的に調べようとするとか、そういった取り組む姿勢というのは、私自身は非常に強い、そういう生徒じゃないかなと感じます。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございます。藤沢の子どもたちの総じた全般的な実態についてお話しいただきました。丸山委員、お願いいたします。

丸山委員

関連してですが、本当にやらせればどこまでも伸びるっていうふうな感じを藤沢の子どもたちに持っています。それをやらせるやらせ方だと思いますが、その調べ学習といいますが、学び方を学ぶといいますが、それをやっていくためには、一つの教科書といえ、東京書籍あたりがいいのかなと思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。  
はい、田中委員。

田中委員

小学校では、歴史学習をはじめ、他のところでも調べ学習をすることが多いのですが、最近は中学でもそういった学習がすすんでいるということで、課題解決的な学習で大変いいのかなと思っていますけれども、調べ学習では、調べる、まとめる、発表する、という中でお互いの生徒たちが、話しの場面でお互いが関わり合うということができているのかなというふうに思っています。そうしますと、教育委員会を出していますふじさわビジョンですけれども、「人・もの・こと」とかかわるといことが、こうした学習の中で生かされてくるのかなというふうに思っています。

そんなことを考えますと、先程丸山委員からお話がありましたけれども、東京書籍ですけれども、まずテーマの設定があって、計画を立てる、調べる、まとめる、発表するといった手順がしっかり示されていて生徒も学習

しやすいのかな、学習の手助けになるのかなというふうに思います。

帝国書院もそういったことが手順がしっかりと出ていて同じような事が言えるのかなというふうに思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。根本委員、よろしくお願いします。

根本委員

藤沢という地域に限って言えば、日本書籍新社には、一遍上人絵伝二枚が掲載されているので藤沢市と関連させた授業展開ができます。

植田委員長

山田委員よろしくお願いします。

山田委員

今、おっしゃられた授業展開と言う点で言えば、東京書籍が調べ学習について、丁寧に取り扱われていると思います。

植田委員長

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。神戸委員お願いします。

神戸委員

作業的にとといいますか子どもたちがただ読むだけではなくて、実際に調べたり、何かをまとめたり、作業的或いは体験的学習内容に関して言いますと大阪書籍の中でその内容を丁寧に紹介したり、章のはじめと終わりに年表と地図を使って学習の流れを捉えやすく説明しているようなところに関心を持ちました。

植田委員長

ありがとうございます。他はどうでしょうか。はい、田坂委員。

田坂委員

生徒が自分自身ですね、歴史の流れを捉えられるように章末のページで学習のまとめがしやすいようになっているという点では、東京書籍が工夫されているなと思います。全体的な分量もひとつの時代にこだわることなく、全体に提示されているという部分については東京書籍が評価できるなと思います。

植田委員長

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。では、広く意見を求めたいと思いますので保護者委員の小西委員いかがでございましょうか。生徒の実態とかそういうことにかかわらずご発言ください。

小西委員

大阪書籍なんですけれども、学習に役立つというホームページがあって、親切すぎるのかなと思ったのですけれども、今の中学生はホームページとかをわりと見る機会が多いと思うんですね。教科書に載っているのちょっと見てみようかなと軽い気持ちで見ることによって、こんなこともあるんだ、こんなこともあるんだというふうに学習の意欲が広がるんじゃないかなと感じました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。同じく亀谷委員いかがでしょうか。

亀谷委員

歴史に関してはとても冊数が多くて、目を通すのが大変だったんですけど、私が見やすいという観点からいうと教育出版の写真とか地図とかがとても見やすかったように思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。無いようでございますので歴史的分野についての審議は以上で終了いたします。引き続きまして、公民的分野について審議をすすめてまいりたいというふうに考えます。委員の発言を求めます。丸山委員よろしくお願いいたします。

丸山委員

学習指導要領において、社会科全体の目標の中にこう書いてあります。「公民としての基礎的教養を培うこと」「公民的資質の基礎を養うこと」があります。1・2年生で学んだ地理や歴史の上に、3年生の公民の学習を積み重ねて、国際的な視野を持った、将来を担う人間を育てる必要があると思います。身近な社会的事象を取りあげて授業を組むことにより、興味・関心が高まりますし、学習したことの定着も図ることができます。そのような観点で教科書を見たときにおもしろいな思ったのが、導入部分に「ハンバーガーショップの経営者になってみよう」という課題をおいている東京書籍がおもしろいと思いました。

また、清水書院の全体の導入にあたるページで4枚の写真を使い「豊かさ」について考えさせるところがいいと思いました。以上です。

植田委員長



ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、田坂委員。

田坂委員

帝国書院の教科書は、生徒にとって親しみやすいイラストやスポーツマン、有名人、そういった写真が多く使われているというのは、親しみという点で非常に子どもたちにとっていいのかなという印象を持ちました。

また、帝国書院は「社会のワンシーンから」という導入部分、これを使って授業そのものが現実の社会とどのようにかかわっていくのかということを考えさせる課題設定をしています。適切な課題設定だと思います。

清水書院の中にもページの左上の「公民ファイル」で様々な投げかけをしています。これも私は興味をひくものだなと思いました。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。ここで古谷委員いかがでしょうか。

古谷委員

先程の委員さんの話を聞いていて、自分で学ぶこととか、調べることが、大切に感じてきました。そういう面では、東京書籍の調べるという点では、テーマを決め、方法を考え、実施し、まとめて発表という学習内容の流れとしては、良いと思います。中でも家庭生活と社会生活の比較も面白いし、特に年代別の表から時代を遡りながら要点を調べたり、考えたりしていて面白い構成だと思います。読み切り漫画や人権などがあると一番良いのではないかと思います。市場経済と金融、新聞の切り抜き、福祉、環境問題等、もっともっと藤沢の子どもたちに知ってもらいたいもの、興味を持ってもらいたいものの学習内容が記載されていていいと思います。

帝国書院の公民の学習は、自身で学ぶことができるという意味ではいろいろなコーナーがあって面白いと思います。学習の運び方が、東京書籍とは少し違いますが、僕なりには面白いと思います。色々な場面で子どもたちのかかわり方や経験が、写真等で記載されていてその気にさせられそうな文章等もあり、学習意欲は上がりそうだと思います。世界、日本、地方と特色がよくわかり、できれば、第4章の「国民として国の政治を考えよう」は、今の中学生に是非学んでもらいたいと思います。以上です。

植田委員長

どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。鈴木委員。

鈴木委員

大阪書籍と教育出版は、バリアフリーについて考えたり、視覚に障害をもっている人とともに暮らしたりするために、立体的な点字や点字による防災マップ等をいろいろと紹介しています。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。丸山委員。

丸山委員

興味・関心という点では、生徒は、狂歌とか川柳とかに興味を持ちます。東京書籍の「公民スキルアップ」にある「マナー川柳」というのがあって、生徒のやってみたいという意欲を喚起すると思います。

それから、帝国書院の「やってみよう」の中で、社会のルールや人権について考えるうえで興味・関心が高まるような工夫がしてありますのでこれもいいなと思います。

植田委員長

ありがとうございました。田中委員、挙手されましたね。よろしく願いします。

田中委員

最近小学校でも「ディベート」による学習を見ることができるんですけども対立する意見を述べあって、第三者が判定するディベートなんですけれども、内容ですとか方法を含めて多くの教科書で取りあげられています。特に教育出版ですが、見開き2ページで環境を守るための取組として「環境税が適切であろうか」という論点で、どのようにディベートをすすめるか、全体構成及び資料を含めましてわかりやすく説明されていると思います。

扶桑社では、「少年法は廃止すべきか」といったテーマで、他者に較べてくわしく説明しているのかなと思いました。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでございましょうか。田坂委員。

田坂委員

学習指導要領に沿った、具体的な公民的分野の項目について考えてみたいと思います。

国際单元についてみてみますと、東京書籍は昨年話題になりました「もし世界が100人の村だったら」を作業課題として国際問題の導入に使っています。非常に興味を持てる部分だなと思いました。このページの右側のところには、私たち神奈川にも非常に関連の深い、本郷台にある地球市民かながわプラザというのがありますけれど写真入りでの説明が載っています。「地球市民」として生きていく自分について考えるきっかけになっていると思います。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございます。他にいかがでございますでしょうか。はい、丸山委員。

丸山委員

日本文教出版は、貿易ゲームというシミュレーションゲームを通して、南北問題を考える糸口にしています。漫画で書かれているのでとてもわかりやすく、しかも深く考えることのできるよい課題だと思いました。

植田委員長

はい、他にいかがでございますか。はい、角田委員。

角田委員

私は、環境問題という観点で公民の教科書を拝見いたしました。帝国書院は、地球温暖化をはじめ環境問題に関して多くのページを割いております。京都議定書についてもわかりやすく解説しています。また、藤沢市でもおこなっているエコマラソンと同様の「環境家計簿」についても取り扱っていました。

また、日本書籍新社の発展学習ですが、水を通して地球環境について詳しく扱っています。とても興味深く読みました。あと、大阪書籍は世界遺産の学習から環境問題の学習への発展が可能であると感じました。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでございますでしょうか。はい、田坂委員。

田坂委員

経済の単元について見ると、特徴のある教科書がありました。扶桑社と日本書籍新社。これは、最初に経済単元を持ってきています。経済的な部分から学習に入っていくということは、子どもにとっては、身近な部分というのがあって入りやすい部分であると感じました。

また、政治学習が憲法学習のあとにくるとというのが、国際学習に続いていくと言った意味でも流れとして流れやすいのかなと思いました。

日本書籍新社は、さらに深める学習というコーナーがありまして、「1000円ショップから世界経済を見る」というテーマがありますけれども、非常にこれは、学習を深めていくのに有効であると思いました。

植田委員長

はい、ありがとうございます。富田委員。

富田委員

清水書院も100円ショップについて扱っていました。ここでは低価格への値下げ競争だけではなく、他の会社にはない価格を持つ商品を作るという視点で考えさせています。

同じように東京書籍も消費者の立場からの視点で書かれているなと思いました。商品を選ぶのは自分たちであるという考えが随所に見られました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他に、はい、丸山委員よろしくお願ひします。

丸山委員

憲法や政治の単元に関して2者述べたいと思います。一つ目は、日本文教出版。憲法や政治の学習ページだけでなく、教科書全般にわたって新聞記事の切り抜きがとても目に付きました。現在、藤沢の生徒たち、毎朝何社も新聞を見せてもらってます。NIEの観点からも真実味があり、生徒が普段の生活の中で新聞に目を向けさせるよいもう一つのきっかけだと思います。大阪書籍は、「ズームイン」というページで「インターネット社会」に触れ、人権と情報モラルについて考えさせていました。ちょっと、興味をひきました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。公民的な教科書の中で、基礎基本の定着についての視点からはいかがでしょう。田坂委員。

田坂委員

基礎基本というのは、自分でまとめていくということが非常に重要なことだと思うんです。そういった視点で見ますと、教育出版は、各章の終わりに学習のまとめがあり、空らんを埋める問題形式で作られており、復習にもなりとてもわかりやすくなっています。また、日本文教出版も章末のまとめはとてもわかりやすいです。

東京書籍は、章末の学習のまとめといったコーナーが作ってあります。重要語句を自分でまとめていくという形式を取っており、さらに学習の振り返りを行うことで、何がわかったか、どこがわからなかったか自分で気づくことができるという構成になっています。基本の定着ということは、まとめる部分が必要ではないかと思います。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。他に基礎基本の定着という視点から見ていか

がですか。ございませんか。それでは、保護者委員の皆様幅広く意見を求めるということで小西委員いかがでしょうか。公民的分野全般に関して結構でございます。

小西委員

帝国書院が見やすいなと感じました。「社会のワンシーン」、「やってみよう」のコーナーなどで中学生の公民に対する意識みたいなものが、構えないで取り組むことができるのではないかなと感じました。

植田委員長

どうもありがとうございました。他にございますでしょうか。それでは、無いようでしたら公民についての審議を以上で終わりにしたいと思います。

それでは、次に地図について審議したいと思います。委員の発言を求めます。はい、根本委員。

根本委員

帝国書院についてですが、冒頭の「地図の使い方」のページは、学習指導要領の目標にある「様々な資料を適切に選択、活用して」ということを意識した内容になっており、生徒が調べ学習を進めるにあたり、使い方が絵入りで示されており、親切的構成になっていると思いました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。地図につきまして他にいかがでしょうか。はい、田坂委員。

田坂委員

まず帝国書院についてなんですけれども、「世界の基礎資料図」というのがありますが、人々の生活や文化の写真、色分けしたものですね、非常にくわしく細かく載っています。巻末には、世界192ヶ国の最新のデータが載っています。といった意味で資料が非常に充実しています。そういう印象を持ちました。それから、資料の中に神奈川県、藤沢市と関連する部分があります。「昼間人口・夜間人口」「京浜工業地帯」「地価」「通勤通学圏」「野菜の生産」など、記載されており、身近な資料として活用しやすいと思います。

東京書籍についてもやはり神奈川県が載っております。先程も申しあげましたように、「昼間人口・夜間人口」「地価」「通勤通学圏」などが記載されており、こちらも身近な資料として活用できるかなと思います。それから、東京書籍は、開いたページが地図上のどこかということを理解する、そういった工夫というのが各地図帳の右下に載っていて非常に使いやすいなという印象を持ちました。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、丸山委員。

丸山委員

東京書籍ですけれど主題図の中のグラフに工夫が見られ、学習指導要領にある「地域間の結びつきから見た日本の特色」がイメージしやすいようになっていると思いました。また、環境問題について理科との関連にも対応できるような資料と説明が充実していて、わかりやすいと思います。

帝国書院ですが、基本図は地勢図で表しており、地形の概観がつかみやすく、拡大図は土地利用や植生で表していて、人々の生活をイメージしやすいように工夫がなされています。また、色づかいがはっきりしているとともに、「やってみよう」「地図を見る目」「考えてみよう」など地図帳を使う上での工夫があって、生徒にとってわかりやすいと思います。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、田中委員。よろしく願いいたします。

田中委員

地図帳は地理的分野だけではなく、歴史的分野等でも使用するんじゃないかと思うんですけれども、帝国書院の「東アジアと日本」の地図が、大陸から日本を見たように描かれています。シルクロードとか中国大陸を含めてですね、大陸とのつながりを歴史的に理解しようとする際に、生徒の理解に役立つのかなと思います。また、「日本との結びつき」という名のデータコーナーなどを設け、学習指導要領の目標にある「日本や世界の地域の諸現象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ」ることができるよう配慮されていると思いますし、グローバルな視野から日本を見るという視点が子どもに育つのかなというふうに思っています。

植田委員長

はい、ありがとうございました。地図につきまして他にご意見ございませんでしょうか。無いようでしたら、ここで地図についての審議を終わりにしたいと考えます。それでは、次に数学について審議をまいります。この審議が終わりましてところで休憩にしたいと思います。

それでは、数学について委員の発言をよろしく願います。内野委員。

内野委員

教育出版は、各章の導入場面で身近な題材を取り上げ、主体的に考えさ

せることを通して、その章の学習内容を見通せる工夫がされていると思います。他社に比べると、説明がシンプルで、生徒の豊かな発想の広がりや数学的な見方や考え方を大切にし、主体的な学習を促している構成になっていると思います。

また、東京書籍においては、学習した内容を利用して問題解決し、数学が身の回りで多く活用されていることが学べ、意味が実感できるような問題が各学年に設定されていると思います。

また、学習指導要領に示されている数学的な見方や考え方のよさを知るような課題や発展教材が多く、章ごとや巻末に十分な量が用意されていて、教育出版、東京書籍の両者とも、数学的な活動の楽しさや数学的な見方や考え方のよさを知り、問題解決力や活用能力を伸ばす編集になっていて、大変、知的好奇心の強い藤沢の生徒にとってよいのではないのでしょうか。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、神戸委員。

神戸委員

数学を苦手とする生徒も多い中、各章の導入場面は、興味・関心を持って楽しく学習を進めていけるかが大切なところだと思います。私は、そのような視点で、各教科書を見てみましたが、東京書籍は、学習意欲が高められるよう、体験的・作業的な活動を取り入れ、それが本文の学習展開にスムーズに流れるようになっていました。

学校図書は、作業・実験・観察など生徒が興味を引くような題材を多く取り上げ、課題意識を持って章の学習に入れるようになっていました。

また、啓林館は、「未来へひろがる」と「楽しさひろがる」の2種類の教科書を作っています。違いは、発展的な内容が巻末にまとめられているタイプと各章末で活用できるタイプで、生徒の実態に合わせ選べるものです。どちらの教科書も、導入に工夫があります。一つは、身近な題材から興味・関心を持たせていること。一つは、中学生のキャラクターを登場させ、生徒と同じ目線で考えるようにしてあること。同様に、博士のキャラクターとの会話を入れることで、問題を深く考えさせようとしていること。さらに、新しい学習内容について考えるきっかけを設定していることなどです。いずれにしても、学ぶ意欲を引き出すための努力の跡が見られます。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。秋田委員。

秋田委員

意見がだぶるのですが、小学校で算数をやり中学校で数学。中学校では

英語に続いて力の差が開いてしまう教科であるし、いかに意欲や関心を持たせるかという観点が大それたことだと考えます。ただ計算力をつけるだけではなく、いかに数学的な考え方を伸ばしていくかということで、学校図書では、一つの考え方から、こんな考え方もあるんだよという導きを出している場面があり、また、そのための手助けとなる写真や図版、漫画的な要素だとかそういうものを含めて興味関心付けができています。

東京書籍ですけれども、「パラパラまんが」を取り入れていてとても面白いと思います。個人差が出る教科と言うことで、その子の力に合った取り組み方というのが大事だと思います。そういう意味では、教育出版の「チャレンジコーナー」では、個々の力に応じて勉強できるというコーナーも設けられています。中学生にとって意欲が出るのではないかと思います。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。角田委員。

角田委員

どの教科もそうなんですが、生徒にとって学習意欲につながる一番大切なものは、私は、「わかる・できる・わかったぞ・できた、できた」といったそんな思いがすごく大事かなと思います。特に数学という教科はステップバイステップというか着実に一つ一つわかっていく、きめ細かに一つ一つステップをふんでいくことが大切だなと考えます。

大日本図書は、例題を解く手順が番号で示され、とても丁寧で分かりやすかったように思います。練習問題は、基礎から発展まで段階的に、生徒の進度に応じて活用できるようになっていて、量も豊富でした。また、それを補充する問題「プラス・ワン」が設けてあり、苦手な生徒も取り組みやすくなっていました。全ての問題の解答も示されていたのはよかったです。

教育出版では、基本の確認の「問」、定着の「練習」、「基本のたしかめ」、「章の問題」、巻末を「計算練習」「実力アップ問題」の2段階に分け、習熟度に対応した構成で、基礎から発展へと配列されていました。章の問題には、観点別評価の4観点の表記があり、ポイントがわかりやすくなっていました。

東京書籍においては、例題の後に「たしかめ」を設けていて、確認した後で問題練習できるよう工夫されていました。練習問題は、基礎的な問題から発展的な問題まで段階的に十分な量が用意され、生徒の中には基礎力の定着に課題がある子どももいるので、これらの出版社が適していると思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。鈴木委



員。

鈴木委員

私も基礎・基本の定着という視点から、学校図書は各学年の巻末に、1年の教科書には小学校の計算が、2年の教科書には1年の計算が、3年の教科書には、1・2年の復習といったように、計算問題が設定され、必要に応じて前年度の復習ができるようになっているのは良かったと思います。

啓林館では、例題に学習のポイントが明記されているため、系統的に学習を進めることができます。また、本文中に、復習のポイントを示すマークが設けられたり、「基礎のたしかめ」では、学習した項目とページが示されていて、繰り返し学習することによって学習内容の定着を図る工夫が見られます。

最後に教育出版でも、本文中で特に小学校で学習した大切な内容を傍注で扱ったり、ポイントを吹き出しで、効果的に表現したりしてありました。さらに章末に、「学習のまとめ」が設けられ、再度、学習のポイントを表記することで復習や確認に役立てることができ、学習内容の定着を図る工夫がなされています。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。亀谷委員、我が子に使わせたい数学の教科書ということではいかがでしょうか。

亀谷委員

繰り返し学習は大事なと常に思っていますが、そういう意味で教育出版の「問い」「練習」「基本の確かめ」「章の問題」「計算練習」等何度も何度も繰り返し学習ができるという点でいいかなと思いました。

それから、東京書籍の「数学の窓」というのがあるんですけども数学に興味を持つにはいいなと思いました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。それでは数学の審議を以上で終えたいと思います。先程申し上げましたがここで休憩を取りたいと思います。ただ今3時50分です。切りの良いところで4時に再開をいたします。10分後よろしく願いいたします。休憩に入ります。

－ 休 憩 －

植田委員長

再開いたします。理科の第1分野の審議をいたします。委員の方の発言を求めます。神戸委員。

神戸委員

学習指導要領の改訂に伴って、内容が削減されまして、理科を教える者としては、もうちょっと先まで教えたいなあという部分がありました。しかし、学習指導要領一部改訂で補充発展内容を扱うことが可能となりました。今回の採択替えでは、補充発展にどのような教材が使われ、どこまで踏み込んで解説しているのかが注目すべき観点の一つだと考えています。

扱っている発展教材の数では、啓林館が最も多く、特に問題になっている「イオンの概念」の扱いについてはこの発行者の取り扱いが最も丁寧だと思います。

また、東京書籍も巻末に大きなカラー資料で「中和」「電気分解」「イオン化傾向」等を取り上げ、かなり深い内容を提示していると思います。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。角田委員。

角田委員

イオンの扱いをどう扱うかという点で議論のあるところですが、大日本図書については、イオンの扱いは、塩酸をとりあげ、1価のイオンのみで説明をしています。どう扱うかということに関して、私も考えてみたのですが、大日本図書の場合は、ここで扱って、解説も簡明でそれほど踏み込んでいません。私は、むしろそれでいいのかなという感じがしました。もっと知りたい生徒には教師が個別に対応できるのではないか、現行の指導要領の内容に沿って、発展的ではあるけれど、この程度の扱いでいいのではないかと私は思います。

また、その单元の中で扱っている燃料電池については、今後の持続可能な社会をつくる上で重要な科学技術だと考えております。そういう意味で学校図書が丁寧に扱っていると思います。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、番場委員。

番場委員

理科の分野に関しては、専門ではありませんのであまり詳しい中身についてはわかりませんが、小柴先生と田中先生のノーベル賞ダブル受賞されたことは、日本にとってやはりすごく感動した、そんな思いがあります。私はつい嬉しくなって、小柴さんの書かれた言葉だとか、研究に至る過程の話だとか、子どもたちの前で話をした記憶が残っています。そんな観点

で、子どもたちに、日本の輩出した科学者、あこがれの的、刺激を与えてくださった人、そんな形で調べさせてもらいました。教科書の科学史にどういう風に扱われているのかなということで比べてみましたところ、どの教科書も科学の歴史や有名な科学者については、コラムというような形で扱っていますが、日本のノーベル賞受賞者9名をすべてきちんとしっかりとした形で取り上げているのは大日本図書と学校図書であると記憶しています。という意味で興味を持ちました。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでございましょうか。山田委員、よろしく申し上げます。

山田委員

教科書の装丁やレイアウトを見ていきますと、啓林館が他よりも版が大きめにできていまして、ずいぶんすっきりと中身がよく収まっているなどという感じを受けました。特に写真とかデータ、グラフが他より見やすくていいなと思いました。また、本を開いたときに、手を添えていなくても閉じてしまわないと、そういうような形になっていますのでとても扱いやすいなというふうに思いました。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。田中委員。

田中委員

小学校では4年生でエネルギー資源の探求について学習しています。電力会社の方とかガス会社の方が講師になっていただいて学習しています。そのようなことからエネルギー資源の取り扱いについて、各発行者を比較してみました。学習指導要領では、環境問題について「エネルギー資源の特性を知り、人間のエネルギー使用が資源確保や環境保全に大きく影響することから、省エネと有効活用させる態度を育てる」と指導要領には書いてあるんですけども、その点では、どの発行者もしっかりと書いてあると思います。

その中でも、大日本図書が原子力発電について使用済み核燃料の安全管理について強く主張しているところや、啓林館が火力・水力・原子力のそれぞれについての課題や問題をしっかり生徒同士で話し合わせる工夫がされている点が良いと思いました。

植田委員長

他にいかがでしょうか、はい、神戸委員。

神戸委員

先程とは違った観点からですが、学習指導要領の内容をどのような教材で理解させるかは、各発行者で様々な工夫をし編集しています。特に、融点の測定に使う薬品、これは水を加えずに個体の状態で加熱して溶けるといいう状態、何度で溶けるかということを実験する訳なのですが、あまり高い温度ですと時間もかかるし、危険であるということで、常温より少し高い温度で融解し、かつ安全な薬品でなくてはなりません。

教育出版ではこの教材にハイポを取り扱っております。ハイポというのは、チオ硫酸ナトリウムといいまして、魚等を飼育するときに水の中のカルキを抜くために扱う薬品です。どの学校にもありますし非常に安いものであります。このハイポについては、50 くらいで融解するというところで実験もすばやく安全にできます。この発行者は他にも地球の磁場で発電をする教材など結構新しい教材を開発しています。以上です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。はい、角田委員。

角田委員

実験のところでは発言させていただきます。中学1年生、1分野で最初に入る実験、非常に楽しみにしている部分があるのですが、授業をしていますと、気体発生の実験の部分は子どもたちが非常に興味を覚えてくれる部分なんで、各者が教科書の気体発生をどういうふうに扱っているかを見比べさせていただきます。3者ほど言及させていただきます。

まず、啓林館のなんですが、気体発生の部分ですが、丁寧な説明でわかりやすい印象を受けました。発展教材でも、身近なものを扱い、家庭において使われる、風呂洗いに使われる薬剤なんですが、混ぜると危険なものということで、写真入りで注意説明もしっかり書き込んでありました。

続いて学校図書も身近なものを使っての気体発生ということで、チョークや胃薬を使用して気体発生ができることなど身近なものをたくさん、多様な教材を扱って、生徒の自由研究で扱えるのかな、また、意欲を高めるようなものかなと思いました。

大日本図書では、いわゆる希ガスというのですが、ヘリウムやネオンなど、そういったものを扱ってありました。特徴で、それらが身の回りでどんなことに役立っているかを説明しています。目に見えない気体に対するよいアプローチのしかただと思います。

古谷委員

理科という分野で興味と関心を持ちながら学習の見通しと目的意識を持

つという面では、学校図書が良いと思いました。また、単元毎の学習の中に「思い出してみよう」「ポイント」「学習の確認」「実験の下見」「レッツトライ」などわかりやすいし、学習意欲をかき立てると思います。挿絵、グラフ等も良いと思います。特に一番親として思うことは、実験を安全すすめる学習内容が、親として安心感を持ちました。

植田委員長

ありがとうございました。富田委員お願いします。

富田委員

大日本図書に藤沢市の太陽光発電パネル写真が掲載されていました。これは、市の新エネルギービジョン具現化のために、江の島の新しくなった灯台に敷設されたものではないかと思います。今後、環境部では市の八ヶ岳体験施設にも太陽光発電パネルの設置を計画していると聞いています。藤沢市の環境教育を進めていく上でも有効だと思います。

植田委員長

ありがとうございました。内野委員お願いします。

内野委員

科学コラムや、取り上げている印象的な写真などから、編集者の意図を読みとると、私は東京書籍と啓林館に引きつけられるものがありました。

東京書籍は基礎基本がしっかり定着することを意図して、写真や図版・資料を豊富に大きく掲げています。科学コラムの内容もおもしろく最新の情報が盛り込まれています。

啓林館は単元の導入部にインパクトの強い写真が掲載され、興味関心を高める工夫がなされていたり、ITの活用や環境問題にもかなり紙面を割いている点が評価されます。

植田委員長

ありがとうございました。他にございますでしょうか。無いようですので、理科の第1分野についての審議を終わります。続きまして、第2分野の審議に移ります。ご意見、ご発言を求めます。はい、神戸委員。

神戸委員

学習指導要領に沿って自ら問題を解決する態度を養い、科学的・総合的な見方や考え方を育てる工夫がこらされているかどうかという視点で二者の教科書について述べさせて頂きます。

学校図書は全体的に説明や解説が詳しく、深く探究できる内容になっています。また興味深く発展性のある教材やコラムが豊富だと思います。

啓林館では、実験観察が「方法」「結果」「考察」の流れを意識させ、科学の方法に沿って問題解決していく構成が他社よりも明確に記されているように思います。また、「考えてみよう」という欄を設け、結果を整理する表を作らせるようになっており、紙面が広いので、容易に書き込むことができるようになっていました。以上です。

植田委員長

保護者委員の小西委員いかがですか。

小西委員

学校図書の教科書が、今まで第1分野で学んできたこととこれから学ぶことの内容が関連付けられて載せているので、子どもにとって学習内容がとても良く学習しやすいのではないかと感じました。

植田委員長

どうもありがとうございました。他にございますでしょうか。丸山委員。

丸山委員

理科や社会は総合的な学習の時間との関連が多い教科だと思います。大日本図書の感覚器官を説明する部分では、障害者用に、見えなくても点字を使う、聞こえなくても手話を使うというように、他の感覚器を用いて思いを伝えることができる例を示しています。福祉的な学習に関連づけているところが良い工夫だと思います。

植田委員長

ありがとうございました。他に、はい、鈴木委員。

鈴木委員

藤沢市では総合かがく展が毎年開催されているので、生徒の自由研究がずいぶん活発に行われていて、質も高いように感じています。どの発行者も学習指導要領の「自ら問題を解決する態度の育成」や「身近な事象から疑問を発見し体験を重視する」といった内容に沿うよう自由研究の事例を数多く巻末に掲載しています。特に大日本図書と啓林館はたくさんのページを割き、事例も多く提示し、作り方の指導も丁寧にできているのが印象的でした。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。角田委員。

角田委員

理科の第2分野では、環境教育・防災教育に関わる内容が多く、それぞれに発行者の主張が読みとれます。

教育出版はマングローブの植林や、里山保全の大切さ等を取りあげ、また火山や地震災害の例から「人間の手で自然を制御することはできない」と述べており、学習指導要領に謳う「自然への畏敬の念を育てる」ということにつながります。

同様に、啓林館では自然をなぜ守って行かなくてはならないか、という説明が丁寧であり、自然災害と対比して、火山や地殻変動が生み出すすばらしい自然景観や温泉の恵、さらに断層沿いに浸食された土地がかつて街道として利用された事実などを取りあげて、自然の恩恵にもふれています。

植田委員長

ありがとうございました。他はいかがでしょう。田坂委員。

田坂委員

環境に関わる教材では、東京書籍が今話題のブラックバスやアライグマなどのたくさんの外来種を紹介し、在来種の遺伝子保護を訴えるコラムが印象的でした。学校図書では今や絶滅に瀕している自生のサクラソウを例にあげて説明しているのもおもしろいと思いました。

教育出版ではミミズを使った堆肥作り、これも興味をひきました。

地域性で見えていくと、学校図書に江の島から藤沢市を縦断する地層の断面図が取り上げられ、ボーリング柱状図から地層を推定する図版として使われていることに興味を持ちました。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょう。角田委員。

角田委員

地震の単元で東京書籍が取り上げている城ヶ島の海食洞の写真は、関東地震による隆起が起きる前のものと現在のものと取り上げられていて比較されていておもしろいですね。大地全体が隆起した様子と波の浸食により穴が大きくなっている様子もわかります。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他に、はい、内野委員。

内野委員

啓林館には、スペースビューという立体工作の付録がついています。これは、宇宙空間を3次元で把握するためによくできた教材で、惑星の満ち

欠けや四季の星座が移り変わる理由などを楽しく学習できます。工作の好きな生徒には興味関心が高まると思われます。

植田委員長

ありがとうございました。無いようですので、理科の第2分野についての審議を終わります。続きまして音楽の一般について審議いたします。委員の発言を求めます。はい、角田委員。

角田委員

教育芸術社はわが国及び世界の古典から現代までの幅広いジャンルの中から指導のねらいに最も適切な教材が選曲され、学習指導要領に示されるとおり、「平易で親しみの持てるもの」「我が国の四季の美しさ」「日本語の持つ美しさ」を盛り込み、詩の字体や風景と相まって歌う者の想像をかき立て、豊かな感性が養われるよう配慮されています。

植田委員長

ありがとうございました。他には、はい、山田委員。

山田委員

教育出版はリズム遊びや言葉遊びから創作へ繋がるアプローチがあり、おもしろく取り組みます。遊びやアンサンブルを通してリズム、メロディー、ハーモニーの三要素を感じ取り、創作への糸口が見つかるようになっていると思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他に、田中委員。

田中委員

先程から小学校との学習の関連で述べていますが、教育出版についてですが、表現活動の創作に関して、リズム打ち、拍子の変化、言葉遊び、曲の構成など3年間に身に付けさせたい力が段階を追ってつくように配列しており、理解しながら創作を楽しめるように工夫されていると思います。フレーズ作りやコンピュータを利用した曲作りなど創造的に表現する楽しさを味わえるのかなと感じました。

植田委員長

ありがとうございました。神戸委員。

神戸委員



教育芸術社は、3年間を見通して発達段階に応じて習得すべき内容を整理し、次第に音域や技量を高めている。例えば歌唱では1年生の基礎的な発声から学年がすすむにつれてより高度な内容が配置されています。各学年のよさを生かした全校合唱「ふるさと」で声の厚みを体感できます。また鑑賞教材は、表現活動と関連を持たせて、1年生では、「映画音楽」他3曲、「日本の楽器」「郷土・アジア・諸民族」を扱っています。2年生では、「ポピュラー音楽」他3曲、「文楽」「歌舞伎」「日本の民謡」「世界の諸民族の音楽」を取りあげています。3年生では、「合唱の名曲」他5曲、「雅楽」「能」「郷土の芸能」「世界の諸民族の音楽」というように、系統立てて多彩な音楽を掲載しています。これは多様な音楽に興味・関心を持ち、幅広く鑑賞する能力を育て音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養うことにつながることであり、音楽活動がさかんな本市の生徒達に適しているのではないかと考えました。以上です。

植田委員長

ありがとうございました。亀谷委員いかがでしょうか。

亀谷委員

教育芸術社の方が、扱われている曲のジャンルが幅広く多いので、子ども達には良いかと思えます。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。それでは音楽一般についての審議を終了いたします。音楽科の器楽合奏について審議します。委員の発言を求めます。はい、山田委員。

山田委員

楽器の導入では教育芸術社は全体像と楽器ガイドが示され、生徒の興味を喚起し、基礎的な奏法を示し、特によく使う音から無理なく段階的に学習を進めることができるのではないかと思います。これは学習指導要領がめざす基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てることにつながるのではないかと思います。

植田委員長

はい、根本委員。

根本委員

教育出版で取り上げられている教材は、特に、映画音楽やメディアなどで取り上げられている馴染みのある曲が多く、生徒の興味関心を集められるよう工夫しています。演奏してみたいという気持ちが起こってくる教材

です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。古谷委員。

古谷委員

わかりやすいという点で教育芸術社がいいと思います。写真もはっきりしていますし、アングルも良いかなと思います。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがですか。田中委員。

田中委員

中学に行きますと小学校と比べてずいぶん楽器が増えてくるなと感じます。

教育出版は、豊富な図や写真、詳しい解説や奏法など、生徒の興味を引き出しつつ、理論的にポイントを押さえて学習できるようになっていると思います。このように多くの情報や発展的な教材の掲載は、学習指導要領の「楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫して表現する」ことをめざすのに有効です。

植田委員長

はい、ありがとうございました。富田委員お願いします。

富田委員

教育芸術社の選曲はとてもやさしくて、なめらかな曲から入り、音域や技術が次第に高度になるよう配列されていて、選曲も世代を超えて親しまれている曲が多く、多彩な音楽活動ができるのかなと、そういう意味では大変工夫されているなと思いました。

植田委員長

ありがとうございました。他に、神戸委員。

神戸委員

教育芸術社はアルトリコーダーの編曲が豊富です。アルトリコーダーだけで演奏可能な編曲が12曲、ソプラノリコーダーを使用して演奏可能な編曲が24曲あります。これらは伴奏に鍵盤楽器を使用して響きを補えるようにもなっていて、選曲の幅が非常に広いということです。藤沢市ではどこの学校でもアルトリコーダーを取り入れた音楽の授業をやっています。

本校でもやっていますが、なかなか曲がないんですね。そういった意味ではこちらの教科書の場合、たくさんの曲の中から、吹きたい曲を選べるという点でいいんじゃないかなと思います。

#### 植田委員長

音楽の器楽合奏につきまして他にいかがですか。無いようでございますので、器楽合奏についての審議を終わります。それでは次に美術について審議します。委員の発言を求めます。秋田委員。

#### 秋田委員

美術は指導要領の改訂で時間数が非常に少なくなってきました。本来私たち日本人が得意であった手仕事の部分がだんだん狭まってきている部分には危機感を感じています。そういう中で美術の教科書は、他の教科の教科書と違って、何かを創作するときのベースになるものなんですね。つまり、創作するときの意欲を触発されるとか、そういう部分で内容ができるだけ豊富な方がいいですし、また、指導する側にもそれを見る子どもたちの側にも参考になる部分が多い方がいいというふうに考えます。今、身の回りには、そういうふうな雑誌や情報がたくさん広まっていますが、子どもたちによっては中学校の教科書くらいの作品や見たものが大人になっても心に残っているものが唯一あるということが結構あるんですね。やはり、教科書の選定については、大事だなあと感じています。3者出ていますけれども3者とも学習指導要領に則って非常に細かい部分までよく考えられていますので、特徴だけを述べたいと思います。

まず、開隆堂は、目標の提示が非常にしっかりしていて、生徒が目標に向かってはっきり取り組めるといった特徴を持っていると思います。どちらかというところオーソドックスな形だと思います。

光村図書出版は、それぞれの領域、例えば「絵画・彫刻」の系統性がはっきり出されていて子どもたちにとって身近な材料を取り上げ、なおかつ短時間でできるような作例を取り上げています。「ワークショップ」を設け、各題材への理解を深められるような工夫もしてあります。どちらかというところ、とりつきやすいという感じがします。

日本文教出版は、各図版が大きく、日本の美術の流れとか世界の美術の流れの図版等非常に大きくなっています。鑑賞画の作例としては使える内容だと思います。生徒作品と作家作品のバランスもよく、なおかつ藤沢地区の作品も中に入っているということで、その学校の生徒が見たらすごく身近に感じると感じます。3者とも偏りなく学習をすすめられるような構成になっています。あとはそれを扱う教師の方がどれだけ使いやすいかということと、子どもたちが、どれだけ身近に感じて自分の工夫のベースとするかでちがいがつくのではないのでしょうか。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。山田委員。

山田委員

意欲を高めるといふ部分で言えば、日本文教出版には2年ほど前に善行中学校が取り組んだ「海の滑り台」が、2・3年生の下の21ページの「学校や地域への発信」の部分で扱われていることは、大変素晴らしいことだと思います。善行中学校の生徒の姿も教科書の写真に載っていますので、藤沢の生徒にすれば、とても親しみが持て、「自分たちも…」という意欲がわき上がるものと思います。

植田委員長

ありがとうございました。小西委員いかがでしょうか。

小西委員

日本文教出版は、芸術作品を鑑賞するだけでなく、色の作り方や作品の見方など、作品づくりの上で子どもにとって参考となると思います。

植田委員長

ありがとうございました。番場委員。

番場委員

開隆堂は、1学年で、身近な材料を使った作品や教室の掲示物などを取り上げたり、2・3学年では、行事を演出する共同制作の取り組みを扱ったり、学校生活と結びついた活動を大切にする中で生徒の意欲を高めていこうとする姿勢が見られます。

また、日本文教出版は福祉問題や環境問題にも配慮し、総合の一つのアプローチにもなるような中身が取り入れられていて、間口が広くて、楽しい部分があるかなと感じました。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。内野委員。

内野委員

掲載作品については、開隆堂は生徒作品が多く、光村図書出版は作家の作品が多いという特徴があります。

日本文教出版はその中間でバランスよく扱われています。紙の質がよく、鮮やかな色合いで、作品本来の色彩が忠実に再現されていると感じました。

植田委員長

ありがとうございました。根本委員。

根本委員

鑑賞領域に関しては、どの教科書も美術文化の継承という点で、歴史的にも国際的にもバランスよく取り上げていますが、日本独特の「わび・さび」「かぶく」「みやび」「いき」についても取り上げられているのが光村図書出版だと思います。

植田委員長

ありがとうございました。他に、はい、秋田委員。

秋田委員

先程の補足なんですけど、装丁の問題なんですけれども、美術の場合には、実技をやる中でその場に持って行って、使うということが非常に多いので、本の作り方に堅ろうさが求められます。どの発行者も表紙はビニール加工されていて、水がかかっても多少は、大丈夫なようにできています。

あとは、光村図書出版は、B5サイズで取り扱いやすいものになっていますし、開隆堂と日本文教出版は、大判で、図版等も見分には見やすいものになっています。特に、日本文教出版は説明の文章の文字が大きく、創作しながら使うという部分では大変読みやすいと感じました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。無いようでしたら、美術についての審議は、以上で終了いたします。次に、保健体育について審議します。委員の発言を求めます。田坂委員。

田坂委員

3者の教科書の中で、特に「健康な生活と病気の予防」について、第4章のところなんですけれども、そこに注目いたしました。私自身、生徒指導関係の担当をしているのが大きいので、特に子どもたちの健康問題に非常に関心があります。藤沢の子どもたちの生活環境が他と比べて悪いという認識はございませんが、やはり昨今の問題として、喫煙・飲酒・薬物乱用の問題は大きな問題と認識しておりますので、その部分に注目していきました。どの発行者も健康を害する恐ろしさについて図やグラフを使って、非常にわかりやすく取り上げていますが、特に、学習研究社と大日本図書の内容が子どもたちにとって理解しやすいと思います。

大日本図書では、補足資料が豊富で知識や理解が充実できる内容となっていて、また、今日的な課題を踏まえて、健康、環境、福祉の内容を扱っており、特に心の問題にも触れているところが良いと思います。

また、学習研究社では、やはり、今日的な課題に重点をおき、心の健康、

障害、病気、男女、環境など、共生の視点で扱っており、文章と図版の分量や配分がバランス良く設定されているので、生徒にとって見やすいものになっています。

植田委員長

ありがとうございました。他に、田中委員。

田中委員

また、小学校の話になるのですが、小学校の教科書はかなりビジュアルになっていますが、中学校もビジュアルになってきたなあと感じます。どの発行者にもそれぞれ特徴があって、目をひかれるんですけども、東京書籍の体のはたらきの発達の章など絵や図、写真等が大きく扱いやすいのではないかと思います。また、学習内容にキーワード示され、課題を考える際に必要な基礎用語の解説もあるのでいいなと思いました。

学習研究社も豊富な資料をわかりやすくまとめているところ、あるいは、単元の終わりに「振り返ろう」というところに自己評価欄があったり、また、書き込み式になっていて自己課題を設定できる、そういった構成になっているところが良いと思いました。

植田委員長

ありがとうございました。番場委員。

番場委員

からだの発達の章のお話がでましたが、学習研究社の7ページ、8ページにQ Aがあり、女の子の月経の悩みと男の子の射精の悩みとがなかなか微妙な部分をこんな形で載せてもらえると上手くアプローチできるかなというような気がします。

植田委員長

はい、ありがとうございました。保護者委員として亀谷委員いかがですか。

亀谷委員

番場委員からお話が出ましたが、なかなか家庭でも話ができないようなデリケートな部分を扱ってくれている学習研究社の扱い方が良いと思いました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他に、根本委員。

根本委員

学習指導計画や指導内容を編成していく上で学習指導要領が指針であると考えます。これをよりどころに、学習指導要領の保健体育の目標の中に、「健康・安全についての理解や、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる」といった、「自らの健康に対する意識づけや体力の向上」という部分が記されています。この目標を受けて藤沢の子どもたちの実態を思い浮かべてみますと、体格は良いが体力が低下している。藤沢に限ったことではないですが。また、言われたことには、素直に取り組むことができるが、自ら考え、実行して行くという点に関して課題が残っています。健康増進や体力向上といったものを子どもたちにとってわかりやすく、盛り込んだ教科書が好ましいのではないかと考えます。

そうした点で3者とも特色がありまして、東京書籍が学習課題とか資料を見開き1ページで関連付けて構成している。大日本図書は、編集内容にデータが非常に多いと思います。

学習研究社は、資料とデータ、解説がバランス良く編集されているなどと思います。そういう状況の中で、藤沢の生徒の実態をふまえて考えていきますと、学習研究社の編集の仕方、その内容が、藤沢市の生徒に対して的を射ているように思います。特に、130ページから始まる新体力テストの取り上げ方に、子どもたちが自ら進んで課題に向かっていけるような編集や内容になっています。以上です。

植田委員長

ありがとうございます。他に、はい、丸山委員。お願いします。

丸山委員

学習指導要領の目標や内容も含めて、さらに、やはり藤沢の子どもたちに足りないものを補い、良いところをもっと伸ばしていくことができるようなものはないかという観点で、各教科書を拝見しました。

東京書籍は、学習指導要領の趣旨に沿い、内容を厳選し、簡潔明瞭でいて、わかりやすい紙面構成をしていると思います。

続いて、大日本図書は、基礎基本の定着に向けて補足資料が充実しており、知識を高めるのに有効だと思います。

学習研究社は、知識の定着に加え、思考力を高める工夫が多く取り入れられており、内容の程度も様々な発達段階の生徒が混在する実情に対応できる編集であると考えます。

植田委員長

はい、どうもありがとうございました。他に、はい、古谷委員。

古谷委員

東京書籍の「心身の発達と心の健康」というところが印象に残りました。また、特に、けがのこと、けが人の手当やテーピングの巻き方もわからない今の中学生に対して教えていたり、またゴミ問題などの社会的な現象も取り扱っていたりしていることが印象に残りました。それと、一番大切なことがマナーだと思います。そのマナーが書かれているところが大変感動しました。他者にも載っていますが、グラフとかが多いと読みにくいという印象を持ちました。

植田委員長

はい、どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。それでは保健体育についての審議を以上で終わります。次は、技術家庭科の技術分野について審議します。委員の発言を求めます。はい、秋田委員。

秋田委員

技術科もやはり、手仕事を学ぶ教科と考えます。現在は、情報も含めて、多くの体験っていうんですか、まあ技術的体験も含めて、どういうふうに取り組んでいくかというふうな教科であると考えます。多様な分野でどうやって体験していくのか、体験はどういうふうを受け止めていくのかというところが勉強の重点と考えます。もちろん、生活という部分が残っていますので、そういう部分が生徒に早く理解できるような教科書が必要だと思います。

その中で、東京書籍は、イラストや図、写真が程良い大きさで入っており、見やすくなっています。内容も最新の情報が盛り込まれていて、現代の生活にマッチしている感じがします。また、項目立てもわかりやすく丁寧に設定されており、作業をする際の手順などもわかりやすいのではないかと思いますので東京書籍がおすすめだと思います。

植田委員長

はい、ありがとうございます。他には、はい、富田委員。

富田委員

東京書籍ですけども、実習例が豊富に掲載されており、生徒1人1人の興味や関心に合わせて作品を選ぶことができるようになっています。また、開隆堂は、作業の流れが見開きのページで一目でわかるようになっており、完成までの行程が理解しやすくなっています。そんな感想を持ちました。

植田委員長

はい、他にいかがでしょうか。はい、神戸委員。

神戸委員



情報の分野を中心に見させていただきました。両発行者とも、インターネットやメールのしくみ、情報モラルやマナー、あるいは著作権等について多くのページをさいており、情報社会に生きる生徒を育てるという観点でどちらも評価できます。最近では、中学生も携帯電話を持ったり、パソコンでメールやチャット・インターネットをやるようになっており、子どもたちの非常に身近なところに情報社会が入り込んでいるという中で、私もパソコンを日常的に使っている立場で両者を見比べてみますと、開隆堂は、データを保存するメディアとして、フロッピーディスク・MOディスク等が紹介されていますが、それに対して東京書籍は、USBを介した最新のスティック型メモリが紹介されており、実際に学校の職員たちもそれを使っているケースが非常に多くなってきており、まあ、民間では、ほとんどまあそれを使っているというような最新の情報が東京書籍には、載っていると、ただし、学校現場での技術科室では、そういった最新のシステムは、まだ高価なので入っていないということで、教える立場で考えると、あるものは、フロッピーディスクとMOなんですけれども、その辺をどう考えるかということですが、一応東京書籍が新しい情報が入っているということでご報告申し上げます。

植田委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい、鈴木委員。

鈴木委員

東京書籍は、必修部分と選択部分及び発展がはっきりわかるように構成されており、また、「学習のまとめ」も、きめ細かく配置されており、しかも生徒が自分で到達度を確認できるように工夫されていて、必要な知識がスムーズに身に付くよう配慮されていると感じます。

植田委員長

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。山田委員。

山田委員

時間数が少なくなりまして、学習指導要領の技術分野の目標である「実践的・体験的な学習活動を通して・・・」という点に対してものづくり体験ができなくなってきているということがあります。

東京書籍はものづくり分野にやや比重を置いて編集され、本市の生徒の、ものづくり体験が少ないという実態を補うという点では適していると考えます。

植田委員長

はい、ありがとうございます。他に、根本委員。

根本委員

私は、開隆堂は、豊富な資料を載せることで実体験の不足を補い、「基礎的な知識と技術を習得する…」という学習指導要領の目標に沿った編集の工夫をしていると感じます。

植田委員長

はい、どうもありがとうございました。他に、無いようでしたら、技術分野についての審議を終わります。技術家庭科の家庭分野について審議します。委員の発言を求めます。角田委員。

角田委員

山田委員から時間数の少なさのお話がありましたが、正にそのとおりで、学習指導要領に書かれている家庭分野の内容には、「生活の自立と衣食住」及び、「家族と家庭生活」という2つがあるわけなんですけれども、東京書籍も開隆堂もどちらも両方の内容を適切に取り上げていますが、開隆堂は、よりバランスよく載せられているという印象があります。

植田委員長

はい、ありがとうございました。内野委員。

内野委員

内容の配列に着目しますと、東京書籍は、食物領域での学習の流れが系統立てて構成され、スムーズな流れになっており、全体的に見て、基礎・基本がすっきりわかりやすくまとめられていると感じます。

植田委員長

ありがとうございます。番場委員。

番場委員

私も東京書籍を挙げたいと思います。授業時間が少ない中で子どもたちは調理実習とといいますと大喜びします。しかし、基本を知らないということが挙げられます。家庭生活の中でも実習する部分が少ないのかなと思います。そういう意味で実習教材に関して東京書籍は優れているのかなと感じました。調理実習の説明が非常に丁寧で、また、材料や調理の要点がよくまとめられていて、家庭で調理しようと思ったときには活用しやすい内容になっています。

植田委員長

はい、という意見がございましたが、小西委員いかがでしょうか。

小西委員

子どもに家庭でいろいろやらせたいと思っても、子どもに時間がなかったり、親に時間がなかったりしている実態の中で、東京書籍の実習の扱い方に保護者としていいなと感じます。

植田委員長

はい、ありがとうございました。田中委員。

田中委員

作業をする際の安全面や衛生面につきまして開隆堂では、マークを使うことで確実に、わかりやすく注意をうながしており、しかも細やかな点にまで丁寧な解説があり、安全面での配慮が行き届いています。また、衣服の項目では、小学校でもミシンを使っているんですけども、最近、家庭でミシンを使うことが少ないか多いか実態はつかんでいませんが、ミシンの取り扱いについてきめ細かく説明されていて、これを見れば、生徒が家で作業するときにも困らないだろうというふうに思いました。

植田委員長

はい、どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。田坂委員。

田坂委員

消費者生活の面では、最近は、架空請求や悪質商法など、中学生が巻き込まれるトラブルも増加傾向にあると認識しています。そういう目で見ますと、両者とも中学生が出会いやすい消費者トラブルの例や特徴がわかりやすくまとめられており、今後大事にしていかなければいけない点がしっかりと載っていると言うことで安心しました。

その中でも、クーリングオフ制度や消費者契約法などについては、開隆堂が絵を効果的に使い、よりわかりやすくまとめられているという印象を強く持ちました。

植田委員長

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。山田委員。

山田委員

学習指導要領との関連で意見を述べさせていただきます。家庭分野の目標の中に、「生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる」という部分がありますが、私は、この部分こそが家庭科の授業の中でもっとも意識されなければいけないところだと考えています。つまり、実生活の中で生かされる内容のものが教科書の中に取り上げられているかどうかということ

ころを大切に思って見てきました。

東京書籍は、衣・食・住・家族・地域・消費・環境ともに、生徒の嗜好や現代のニーズに合ったものが取り上げられており、写真も豊富でわかりやすい内容になっています。

開隆堂は、調理実習例としておにぎりやお弁当作り、だし汁の取り方のような、すぐにできてしかも実生活に密着した題材、あるいは骨せんべいのように残った食材を使った調理など、これから生きる子どもたちにとって是非とも大切にしてもらいたい内容を取り入れていることは評価したいと思います。

植田委員長

はい、どうもありがとうございました。無いようでしたら、家庭分野についての審議を終わります。最後になりました。英語について審議します。委員の発言を求めます。

鈴木委員

どの教科書も絵本のようにきれいで目移りしてしまいますが、東京書籍の教科書が絵、写真ともとてもきれいで、生徒の興味を引くように思いました。また、文が短くわかりやすいと思いました。

三省堂も初めの方の絵が大きく、場面がよくわかります。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。角田委員。

角田委員

私は教科書がカラフルで絵が多いと感じました。光村図書出版は絵も少なくかえてシンプルで見やすいと思いました。でも、読んでみると、中学生の男の子が主人公で、その子の学校での部活などを通して成長するストーリーになっていて、おもしろかったです。生徒も英語が身近に感じられるのではないかという感じがしました。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。番場委員。

番場委員

今の教科書は読むだけでなく「話す」「聞く」など、活動的になっているんですね。どこの教科書を見ても活動をたくさん取り入れているんだなという気がしますけれど、三省堂は1年から3年まで各ページの下に、「聞いてみよう」「話してみよう」というのがあって、そこで出てきた新たな文型を聞いたり話したりして、活動に結びつけるような定着のさせかたが、

印象に残りました。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にございますか。富田委員。

富田委員

学習指導要領では、「積極的にコミュニケーションする態度を育成する」という目標がありますが、学校図書は他の教科書と違って1年の初めで一般動詞 I like から導入されていて、自分のことを言ったり相手に聞いたりする活動がしやすくなっています。

東京書籍は会話のページが見開きになっていて、お互いの台詞を見ないで練習できるような工夫がされています。

外国語は「聞く」「話す」という技能の習得はもちろん大切ですが、発信する内容が大切だと思います。そう言う点で、三省堂は今日的な課題をいろいろな角度から取り上げており、21世紀に生きる国際人として大切な資質を育てるのに適していると思います。

植田委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。根本委員。

根本委員

生徒が自分で勉強するという点では、東京書籍の文法解説がわかりやすく、授業中だけで十分に理解できなかった生徒も家に帰って復習ができるのではないかと思います。

植田委員長

はい、ありがとうございました。他にいかがですか。丸山委員。

丸山委員

開隆堂の教科書には Check your progress というページがあって、自分で自分のつまづきが発見できるようになっていいですね。

三省堂は他の教科書に比べて、3年生で、読む文が多く配列されており、良かったと思います。

植田委員長

はい、ありがとうございます。他に、富田委員。

富田委員

語学習得の上でも、入門期は音声を重視するのが良いので、どの教科書も会話体になっていますが、学年が上がるにしたがって「読む」活動や「書

く」活動が、重要になってきます。

三省堂は各レッスン毎に Think about it という「書く」活動があり、それ以外にも日本文化の説明文や3年間の思い出を書くという活動が設定されていますが、量的にはちょうどよいと思います。

学習指導要領では、言語や文化に対する理解を深めるという目標があげられていますが、他国の文化を知るだけでなく、自国の文化を知り、英語で表現する活動はとてもこれからは大事だと思います。

植田委員長

はい、どうもありがとうございます。保護者委員の古谷委員いかがでしょうか。

古谷委員

学校図書の「確かな英語力を身に付けるためには」というところが、英語が苦手な私でもいいかなと感じました。それから教科書の中に点字が用いられていたり、内容の中にゴミのことが書かれていたりしたのが今の藤沢の子に合っているのではないかと感じました。

植田委員長

小西委員どうぞ。お願いします。

小西委員

学校図書は、一般動詞から始めるということで、逆にいろいろな文を示し、会話文に持っていくことで、かえって会話の世界が広がるんだと、目から鱗が落ちるような感じを受けました。

亀谷委員

私は並べて開いて、どれが一番目に飛び込んでくるか見たところ、東京書籍と開隆堂と三省堂が目飛び込んできました。ぱらぱらと見たところ、学校図書の月に一度、子どもがわかりやすい歌を学べるようになっているのが、子どもの興味を引いて、よいと思いました。

植田委員長

はい、どうもありがとうございました。他にございますか。英語についての審議はこれで終わりにしたいと思います。これで全種目の審議は、終了いたしましたけれども、全体を通じまして何か言い残したこととかございませんでしょうか。はい、どうぞ、亀谷委員。

亀谷委員

中学生の子どもが、2人いるんですけれども、6時間ありますと、教科書と補助教材と部活の道具とお弁当をバッグに入れていきます。学校に行くだけで、疲れてしまう状況がありまして、どの教科書もカラーで素敵なんですけれども軽くて持ち運びやすいのが、子どもに優しいかなと思います。あと、カラーページがすごく多くて本当にどれを学びたいのかっていうのが親としては、みんな素敵なので、子どもは、どういう感じを受けるのかなと感じました。

植田委員長

はい、どうもありがとうございました。他にございますか。無いようでしたら、本日出されましたご意見を簡潔に記載して、答申を作成して参りたいと思います。

この答申書の皆様への確認は、第3回審議委員会の議事の中で行いたいというふうに考えます。そのような段取りでよろしいでしょうか。

各委員

結構です。

植田委員長

はい、ありがとうございます。それでは、次回のことについてお諮りいたします。

次回の議事は、平成18年度使用藤沢市立養護学校及び特別指導学級用教科用図書についてが1点でございます。2点目は、平成18年度使用藤沢市立中学校の教科用図書の審議結果について（答申）、これについてやりたいと思います。この2点でございます。

また、日時と場所ですが、7月15日（金）午後2：00から、場所は、藤沢市役所新館7F 第7会議室、ここでございます。ということでいかがでしょうか。

各委員

結構です。

植田委員長

大変長時間にわたるご審議ありがとうございました。3時間30分になるうかと思えます。

これをもちまして第2回平成18年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会します。どうもありがとうございました。